

笑顔明中 12月

平成23年12月1日 第9号

みんなで育てる！

校長 保母 直彦

12月実施の合唱祭のために、例年より半月早めて三者懇談を実施いたしました。お忙しい中、ご協力ありがとうございました。三年生にとっては進路決定の重要な場でした。また、懇談を通して保護者の皆さんの生の声を聞き、さらに保護者や地域の皆さんの信託に応えるべき学校教育を充実させていかなければと気を引き締めております。

この三者懇談の中では、家庭学習に一層の努力をお願いしました。学校でも呼応するように学習図書委員会が、家庭学習時間のキャンペーンを張ってくれました。期末試験の時期でもあり大幅にアップしました。目指すは、家庭時間の確保です。目標は【学年＋1時間】、一年生では2時間、二年生では2.5時間～3時間そして三年生では3時間～4時間です。家庭学習の重要性は、エビングハウスの忘却曲線が示すように授業で学習した内容の6割は忘却の彼方に消えていくという事実にあります。つまり、もともと人間は忘れるようにできているらしく繰り返し復習をすることの意味はそこにあります。家庭学習を頑張ることは、学習したことを確実に身につけるということにつながります。学習図書委員会の調査によると、二年生が大変頑張ったということでした。部活・クラブ活動の中心として活動をしながら学習時間を伸ばしているところにとっても価値があります。

部活動と言えば、先日11月12日に中体連駅伝の岐阜県大会が山県市で行われました。我が校からも何年かぶりで陸上部女子チームが出場を果たしました。予選会を兼ねている東濃大会では、最後まで諦めないで粘り強くタスキをつなぎ、見事4位に入り県大会の切符を手に入れました。こうした素晴らしい成

績を残すことができたのは、選手一人一人の目標へ向けての努力はもちろんですが、私は部活全体で頑張ってきたことも大きいと思います。例えば、県大会が決まった後でも出場が叶わなかった男子部員は、延長部活の薄暗い中、選手と一緒に走り、練習そのものの質を高めるために協力する姿がありました。部活全体で勝ち取った県大会だったといっても過言ではありません。そんな陸上部の姿が、部活動のあり方を教えてくれているように思います。

保護者の皆さんが、中学生の頃と比べ部活動に取り組む環境は、一見すると格段に良くなっているように思えます。用具、設備のハード面はもちろんコーチの招聘、選手送迎などソフト面にわたり、生徒たちにとってこの上ない環境があります。しかし、だからといってどの生徒も嬉嬉として取り組んでいるかといえばそうとも言えないようです。今も昔も生徒一人一人は、様々な悩みや迷いをもちながら中学生を送っています。部活動もその一場面に過ぎません。環境だけでは解決ができない問題を抱えています。だとすると私たちのできることは、生徒に寄り添い、生徒一人一人に向き合うことが大切のように思います。

12月に部活クラブ四者連絡会議を予定しています。生徒を真ん中にそれをサポートする社会人コーチ、保護者そして部活動顧問による現状の交流や目指す目標についてどう応援していくかが話し合われる機会になればありがたいと思っております。重点目標である『やる気ある生徒を育てる部活動』が、実となり生徒の嬉嬉として取り組む姿が沢山見られるようにみんな育てたいものです。